

令和3年度中学校各教科等担当指導主事連絡協議会

「特別の教科 道徳」の 学習指導と評価

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 飯塚 秀彦

『中学校解説 特別の教科 道徳編』
第5章第2節の「1 評価の基本的態度」

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような**道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。**

しかし、**道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められる。**

生徒の学習状況は指導によって変わる。

➤ 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(1) 道徳科に関する評価の基本的な考え方」

道徳科では、生徒が「**自己を見つめ**」「**広い視野から多面的・多角的に**」考える学習活動において、「**道徳的諸価値の理解**」と「**人間としての生き方についての考え**」を、**相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく**。こうした学習における一人一人の生徒の姿を把握していくことが生徒の学習活動に着目した評価を行うことになる。

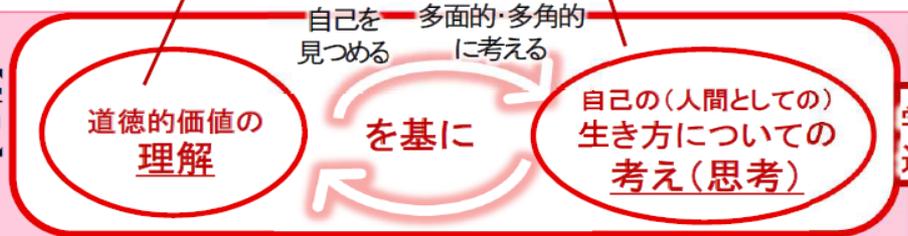
小・中学校における道徳教育と資質・能力（イメージ）

別添16-2

道徳科

【学習】

道徳科の学習活動を支える要素



道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

【評価】

積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」

観点別評価や他の児童生徒との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえ、道徳科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうか注目に値する。(H28.7.29初等中等教育局長通知)

道徳教育の要として補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させる

【学習】

各教科等の目標に基づく固有の指導

【評価】

「学びに向かう力、人間性等」に係る個人内評価

道徳性の育成は、「学びに向かう力・人間性」に深く関わる。「学びに向かう力・人間性」には、各教科等における観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分がある。こうした部分については、個人内評価(個人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する)を通じて見取る。(H28.8.1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)」教育課程企画特別部会)

道徳教育・道徳科で育てることを目指す
資質・能力

学習を通して

道徳性

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

基盤となる

自立した人間として
他者と共によりよく生きる
実践(行為・表現など)

各教科等で育成する資質・能力
「学びに向かう力、人間性等」

学校生活全体において具体的な行動として見られる部分

児童生徒の具体的な行動に関する「行動の記録」

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の具体的な行動について記載する。

※ 本図は道徳性の育成に関わる学習(活動)に着目して整理したものであり、この他にも、道徳性が養われる過程には様々な整理の仕方があると考えられる。(例えば、実践を通して道徳性が養われることもある。)

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(1) 道徳科に関する評価の基本的な考え方」

道徳科では、生徒が「**自己を見つめ**」「**広い視野から多面的・多角的に**」考える学習活動において、「**道徳的諸価値の理解**」と「**人間としての生き方についての考え**」を、**相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく。**こうした学習における一人一人の生徒の姿を把握していくことが生徒の**学習活動に着目した評価**を行うことになる。

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(1) 道徳科に関する評価の基本的な考え方」

評価に当たっては、特に、**学習活動において生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**

⇒ **一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**

⇒ **道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**

といった点を重視することが重要である。

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(2) 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方」

道徳科において，生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り，記述するかということについては，学校の実態や生徒の実態に応じて，**教師の明確な意図の下，学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要がある。**

**生徒の学習状況は
指導によって変わる。**

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(2) 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方」

☆生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- ・ 道徳的価値に関わる**問題に対する判断の根拠**や**そのときの心情**を**様々な視点から捉え考えようとしている**こと
- ・ **自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている**こと
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において**取り得る行動**を**広い視野から多面的・多角的に考えようとしている**こと

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(2) 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方」

☆ **道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか**

- **読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていること**に着目したり
- **現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直している**ことがうかがえる部分に着目したり
- **道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めているか**
- **道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしているか**

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(1) 道徳科に関する評価の基本的な考え方」

評価に当たっては、特に、**学習活動において生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**

⇒ **一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**

⇒ **道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**

といった点を重視することが重要である。

➤ 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に**

➤ 道徳的諸価値についての理解を基にする

教師の道徳的価値の理解が重要

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第3章第1節の1
「(1) 内容の捉え方」

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、**教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題**である。

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(1) 道徳科に関する評価の基本的な考え方」

道徳科の内容項目は、道徳科の指導の内容を構成するものであるが、**内容項目**について単に知識として観念的に理解させるだけの指導や、特定の考え方に無批判に従わせるような指導であってはならない。**内容項目は、道徳性を養う手掛かりとなるもの**

道徳性

道徳的な判断力、
心情、実践意欲と
態度

基盤と
なる

自立した人間として
他者と共によりよく生きる
実践（行為・表現など）

『中学校解説 **総則**編』第3章第1節の2の(2)

「③ 道徳教育の目標」

道徳性とは，人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり，人格の基盤をなすものである。それはまた，人間らしいよさであり，**道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの**といえる。**個人の生き方のみならず，人間の文化的活動や社会生活を根底で支えている**。道徳性は，人間が他者と共によりよく生きていく上で大切にしなければならないものである。

内容項目を手掛かりとして

- 自己を見つめる
- 物事を広い視野から
多面的・多角的に考える
- 人間としての生き方について
の考えを深める

生徒だけでなく、教師も

9 相互理解, 寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

(小学校) [相互理解, 寛容]

[第3学年及び第4学年] 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

[第5学年及び第6学年] 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

☆ **道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか**

- ・ **道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか**

〈相互理解, 寛容〉

(1) 内容項目の概要

人間は、大抵の物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。そこで大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。他者と全く同じということはないのであり、他者との関わりの中で具体的な物事について話し合ってみないと、自分の狭さに気付くことができない。そして、自分自身も他者も、それぞれのものの見方や考え方にとらわれ、過ちを犯しやすい人間であると深く理解することで、自分と異なる他者の立場や考え方を尊重することができる。

〈相互理解, 寛容〉

(2) 指導の要点

中学校の段階では、(…中略…) 学年が上がるにつれて、**もの見方や考え方が確立するとともに、自分の考えや意見に固執する傾向も見えてくる。**また、自分と他者の**考えや意見の違いが明らかになることを恐れたり、考え方の違いから仲間だと思っていた関係に摩擦が生じたりして、悩み、孤立する場合があります。**その一方で、**過剰に同調する傾向も生じやすく、いじめのような問題に発展することもある。**安易に人の意見に合わせることで、現実から逃避したり、自分さえよければよいという考えをもったりすることもある。

〈相互理解, 寛容〉

(2) 指導の要点

指導に当たっては、(…中略…) **中学生は、他者の考えや立場を尊重し調和して生活していかなければならないと知っているが、その一方で、寛容に生きていくための処世の術のように理解していないか、問わなくてはならない。**寛容は、他人の過ちを大目に見たり、見て見ぬふりをしたりすることではない。他人の過ちを許すことは、他人の不正を許すことではないのである。

さらに、**いろいろなものの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで、判断し行動することの大切さを理解できるような指導の工夫が必要になる。**

➤ 道徳的諸価値についての理解を基にする

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第2章第2節
「2 道徳的諸価値についての理解を基にする」

思春期にかかる中学生の発達段階においては、**ふだんの生活においては分かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値**について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道徳科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして**自己との関わりを問い直すこと**によって、**そこから本当の理解が始まる**のである。

〈無知の知〉

「ソクラテス以上に知恵のある者はいない」という神託
→世の中で知恵のあると言われている人との問答

わたしは、自分ひとりになった時、こう考えたのです。この人間より、わたしは知恵がある。なぜなら、**この男もわたしも、おそらく善美のことがらは、何も知らないらしいけど、この男は、知らないのに、何か知っているように思っているが、わたしは、知らないから、そのとおりに、また知らないと思っ**ている。だから、つまりこのちょっとしたことで、わたしのほうが知恵のあることになるらしい。つまりわたしは、知らないことは、知らないと思う、ただそれだけのことで、まさっているらしいのです。

(田中美知太郎訳『プラトン全集1』「ソクラテスの弁明」岩波書店)

➤ 道徳的諸価値についての理解を基にする

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第2章第2節
「2 道徳的諸価値についての理解を基にする」

また、**時には複数の道徳的価値が対立する場面**にも直面する。その際、生徒は、時と場合、場所などに応じて、**複数の道徳的価値の中から、どの価値を優先するのかの判断を迫られること**になる。その際の心の葛藤や揺れ、また選択した結果などから、道徳的諸価値への理解が始まることもある。

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第3章第1節
「2 内容の取扱い方」

(1) 関連的，発展的な取扱いの工夫

ア 関連性をもたせる

指導内容を構成する際によりどころは，基本的には22の項目であるが，**必ずしも各内容項目を一つずつ主題として設定しなければならないということではない。**内容項目を熟知した上で，各学校の実態，特に生徒の実態に即して，生徒の人間的な成長をどのように図り，どのように道徳性を養うかという観点から，幾つかの内容を関連付けて指導することが考えられる。

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第3章第1節

「2 内容の取扱い方」

(1) 関連的，発展的な取扱いの工夫

ア 関連性をもたせる

その際，内容の関連性を踏まえた配慮と工夫が求められる。少なくとも，**適切なねらいを設定して主題を構成し，焦点が不明確な指導にならないようにする必要**がある。

〈小括〉

- ・ 道徳科の目標

「道徳的諸価値についての理解を基に」

→教師の道徳的価値の理解が重要

- ・ 内容項目

教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための**共通の課題**

→教師も、内容項目を手掛かりとして、

- 自己を見つめる

- 物事を広い視野から多面的・多角的に考える

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第3節
「2 授業に対する評価の基本的な考え方」

- ア 学習指導過程は、**道徳科の特質を生かし、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。**また、**指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。**
- イ 発問は、**生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問い**など、**指導の意図に基づいて的確になされていたか。**
- ウ **生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する生徒の発言などの反応を、適切に指導に活かしていたか。**

➤ 道徳科のよりよい評価に向けて

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2
「(3) 評価のための具体的な工夫」

- 生徒の**学習の過程**や成果などの記録を計画的にファイルに**蓄積したもの**
 - 生徒が**道徳性を養っていく過程**での生徒自身のエピソードを**累積したもの**
 - 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど**具体的な学習の過程**を通じて生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することが
- ※こうした評価に当たっては、記録物や実演自体を評価するのではなく、**学習過程を通じていかに道徳的価値の理解を深めようとしていたか、自分との関わりで考えたか**などの成長の様子を見取るためのものであることに留意が必要

➤ 道徳科のよりよい評価に向けて

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(3) 評価のための具体的な工夫」

・ 生徒が行う自己評価, 相互評価

→ **生徒が自身のよい点や可能性に気付くことを通じ, 主体的に学ぶ意欲を高めることなど**, 学習の在り方を改善していくことに役立つ

※年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習

※年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習を工夫

➤ 道徳科のよりよい評価に向けて

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(3) 評価のための具体的な工夫」

- ・年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う
 - 学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり、**普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見**することができるなど、**生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握**することができる

➤ 道徳科のよりよい評価に向けて

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(4) 組織的, 計画的な評価の推進」

- ・ 学習評価に当たって重要なことは

妥当性, 信頼性等を担保すること

→ 評価は個々の教師が個人として行うのではなく、**学校として組織的・計画的に行うことが重要**

※ 学年ごとに**評価のために集める資料**や**評価方法**等を**明確に**しておくこと

※ 評価結果について**教師間で検討し評価の視点などについて共通理解**を図ること

※ 評価に関する**実践事例**を蓄積し**共有**すること

➤ 道徳科のよりよい評価に向けて

『中学校解説 特別の教科 道徳編』第5章第2節の2

「(5) 発達障害等のある生徒や海外から帰国した生徒、日本語習得に困難のある生徒等に対する配慮」

- ・ 発達障害等のある生徒に対する指導や評価を行う上では、それぞれの学習の過程で考えられる「**困難さの状態**」を**しっかりと把握した上で必要な配慮**が求められる。

※他者との社会的関係の形成に困難がある生徒の場合

- ・ 相手の気持ちを想像することが苦手で字義どおりの解釈をしてしまうこと
- ・ 暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さ
 - 他者の心情を理解するために役割を交代して動作化, 劇化
 - ルールを明文化したりするなど必要